

空間をつくる緑

空地

植栽

建物

道路

境界

パブリック

コモン

パーソナル

葡萄のある風景を



仕組み

つながり

風景

営み

愛着

安心

来訪



塩尻市街地にはまとまった緑地があまりなく、個人住宅の植栽が、街並みを彩る大切な要素となっています。そこで、新たな植栽のあり方として「空間をつくる植栽」を提案します。塩尻のシンボルである葡萄を活用し、各住宅の軒に葡萄棚を取りつけて、街路と緩やかに繋がりをもつ空間をつくり出します。葡萄棚は四季の変化に応じて表情を変え、街に彩りを与えます。実った葡萄を収穫して楽しむだけでなく、夏には軒下でバーベキューをしたり、秋には子どもたちが落ち葉で遊ぶ場所にも。街なかの至るところに人々の居場所ができ、街に活気もたらされます。また、各住宅に葡萄棚が設置された光景は、「ぶどうの街 塩尻」の新たな魅力発信へと繋がるのが期待できます。